

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧になれます

防災ボランティアグループ 総会に出席して

関ヶ谷自治会会長
田崎 幸雄

新年の金沢区賀詞交換会、金沢区・林塚磨区長が年頭のご挨拶をされました。ご挨拶の骨子・要点としては、下記の5点を上げておられました。

金沢区の抱える大きな問題点、及び、その対処対応策として、

- ① 高齢化対策の強化、② 防災（減災）対策の強化、
- ③ 歴史・文化の維持継承、④ 大学と地域の連携強化、
- ⑤ 行政と地域の連携強化。

この5点を特に重点課題として取り組む基本方針を力説されました。これらの要点は、全てが正に、私たちの関ヶ谷自治会そのものに符合するものでした。

少子高齢化の時代と云われ始めてもう久しくなりませんが、愈々本格的な高齢化の時代に入り、今や真只中です。横浜市18区の中では金沢区が、金沢区の中では釜利谷地区が、釜利谷連合16自治町内会の中では関ヶ谷自治会が、高齢化NO.1の現状実態にあります。

この現実の問題・実状を正しく踏まえ、自治会としては、何んとしても防災ボランティアグループ（以下防災V.G.）の協力を仰ぎたいものだから、昨年度初めより、自治会と防災V.G.の連携強化・一体化を図るべく、話し合い・検討を重ね進めてまいりました。そして、漸く此処に来て、連携・一体化も進み、具体的に動き出して来た感じがして、大変嬉しく思います。

お陰様で、昨年度は自治会防災の支柱となる「自治会防災指針」を策定できました。今年度は災害時に備えた「自治会災害対策本部設置要綱」を策定することもできました。新年度は、防災V.G.が新たな取り組みの課題案件として上げる、次の3点が特記案件です。

- ① 防災スキルチームの設置、
- ② 災害発生時の要援護者支援体制の強化、
- ③ 自治会防災部長としてのご代表人員の派遣。

これらは、来年度の自治会・防災部門として、これまでにない大きな明るい展望が開けて来たのだと感じているところです。大変嬉しく有難く感じているところです。

自治会と防災V.G.の更なる連携強化・一体化を図りながら、自治会地域住民皆さんの安全安心な暮らしをしっかりと守って行きたいものです。どうぞ、宜しくお願い致します。

総会を終わって

平成27年度方針

防災ボランティアグループ代表
徳岡 正彦

防災V.G.の総会が1月17日に開催され、42人のボランティアの皆さんのご参加を頂き、熱心な議論がなされた。その結果、従来の要援護者の安否確認を中心とした活動から、自治会の防災全般を担う方向に大きく一歩踏み出す事が承認されました。

1. 防災V.G.はH22年11月に発足し、今年で4年2ヶ月となりました。現在、防災V.G.メンバーは全員で102名、内女性は39名で38%です。

2. 取り巻く環境では昨年12月19日の政府地震調査委員会発表により、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は、横浜78%が全

国最高で、次は千葉の73%、水戸70%、静岡66%、東京は46%との事。これは子供や孫は大地震にほぼ見舞われるリスクが鮮明になってきました。とは言っても明日かもしれない。

3. 昨年7月に自治会と防災V.G.は防災活動の一本化と強化に向け、防災会議を立ち上げ基本計画の立案・一体化した防災訓練等について毎月1回討議を重ねました。具体的には「災害対策本部設置要綱」等を制定しました。

4. 災害時要援護者（民生委員のアンケートと金沢区の情報共有方式による希望者）の安否確認（班長と共同）その後の支援を行うべく、要援護者リストを皆様に、数名で担当して頂くよう現在鋭意準備中です。5. 向こう三軒両隣、いわゆる近助の安否確認は自治会の班長・地区長さんによる活動が頼りつつあります。よって、防災V.G.は今までより一歩踏み込んで平時防災・減災に繋がる防災スキル（技術）チームを設置しますので皆様方のご参加を切にお願いいたします。

6. 初動開始基準を変更します。今までの「震度5弱」をもって初動開始としましたが自治会・行政と同様「震度5強」に変更いたします。横浜市は「震度5弱」の場合、過去の被害が軽微であったとの見解です。

7. 具体的な共助の活動として

- ① 救助・医療
- ② 消火
- ③ 情報通信・電気
- ④ 食糧・物資等

基本的に言われている役割があります。今後前述の幾つかの役割を持ったチームを立ち上げたいと考えています。



防災アイデア

ポリ袋で作る非常食レシピ



ポリ袋と台所にある食材を使って温かく美味しい食事を作りましょう。乾パンや缶詰などの非常食も3日分は確保しておきたいですが、これを食べるのは後。冷蔵庫の中のもの、台所に残っている米や野菜を先に食べるようにする。台所は柱や壁が多く、比較的壊れにくい構造ですから食料を確保できる可能性が高いです。その時に役立つのが家庭で一般的に使われている耐熱性のポリ袋。これに米と水をいれ30分位煮ればご飯が炊けます。おかずを作ることもできます。残っていた食材や調味料を使って、少しでもおいしい物を作って食べましょう。ちょっとした食事の工夫で生きる元気が出ると思います。ポリ袋を100枚位用意しておくとう便利です。

ポリ袋で作る 非常食レシピ：さつまいもご飯

米	180g(1合)	作り方
サツマイモ	100g	① 2重にしたポリ袋に材料を全部入れる
白だし	20cc	② ポリ袋から空気をよく抜き 輪ゴムで軽く空気が抜ける様しばる
水	200cc	③ ②を沸騰したお湯の中に入れ 30~40分ポイルする。
塩	少々	* 柔らかいご飯が良い場合は水を20cc位増やす。 * サツマイモは水にさらしてアク抜きしてから入れると綺麗に仕上がる。



★ お米は無洗米でなくともよく 普通のお米を洗わず使います。
★ ポリ袋のまま器に被せて食べると食器を洗わず節水できます。
いざと言う時 慌てないように、鍋に湯を沸かし ポリエチレン袋に小分けにして材料を入れご飯 おかず共 殆んど物が30~40分ポイルすれば出来ます。
大き目の鍋を使えば 一度に何種類か作ることが出来ます。



最近、特に3・11以降は、防災が声高に叫ばれています。私も地域の防災拠点の機器点検グループに参加して、防災意識は一応は持っているつもりでした。

防災は、白助、共助、公助と言われています。まずは、自分の安全が確保されなくては、共助などできるわけがありません。そこで、自宅を調べてみると、入居は昭和55年、確認申請の設計図は54年でした。これを何とかしなければ共助などできません。

1. 無料耐震診断申請と実施
申請と実施は平成23年、結果通知は24年1月。審査は設計図による書類審査だけ。結果は震度5に対し倒壊のおそれがある。震度6未満で倒壊の恐れがないのを10点とすると拙宅の点数はたったの1.8点だった。

2. 工事依頼
懐具合から工事依頼をするのを少々ためらっていたところ、10月に、市から24年度中に補助金の申請をしないと補助金の特典がなくなる、との通知があり慌てて業者を選じた。この場合の業者は、横浜市内に本社がなく、は駄目というところで前述のホームインクは本社が東京のため依頼できなくなりました。堀切さんにお願しようとしたが、市に登録がないというので、これも駄目だった。

小西さんがすでに申請された由を伺ったので、すべてに物堅い小西さんが依頼した業者なら良いだろうと教えを乞うた。その結果設計、施工業者とも金沢区内の設計事務所に依頼した。



3. 設計結果
精密診断した結果、耐震の点数を10点に上げるために以下の対策が必要とのこと。

- ・基礎補強1ヶ所
・筋交い補強+耐震壁の設置
外壁・1階 半間×5ヶ所、2階 半間×4ヶ所
内壁(部屋の仕切りなど)
1階・半間×9ヶ所、
2階・半間×3ヶ所
合計 半間×21ヶ所
補強工事は、既存の筋交いを交換して、市指定の補強金物と耐震ベニヤ板の追加。
上記全体の見積もり額は、
設計管理...55,2万円
工事...235,9万円
以上の見積りに対し補助金予定額は、
設計管理...22,5万円
工事...202,5万円
合計 225万円
不足金額...66,1万円となる。

4. 設計契約
この時の話では、消費税の8%アップ前、即ち26年3月までにはすべてが終わるとのことであった。しかし、待てど暮せど審査がおりない。設計業者の話では、申請がぎりぎりだったので、市の審査立て込んでいたことであった。

5. 審査承認と工事契約
やっと26年8月末になり審査が承認され、工事契約を締結した。消費税はとくに8%に上がっている。工事業者は設計事務所の提携業者。

6. 耐震工事
工事着工は10月に入りました。それから、大工2人のほか、土建屋、内装屋、塗装屋などが入れ替わり立ち替わりで突貫工事。暮れの28日にやっと終了した。

7. 最終検査
最終検査が終わって初めて補助金が支払われる。しかし、27年1月上旬現在、この検査は終わっていない。検査官の予定待ち。



カーポートは建ぺい率に算入されるのであり、それは違反であり検査に通らない。検査を控え、現在カーポートの屋根は外してある。白分で行った。感想
・住んだままで工事を行うのは誠に大変です。最悪寝る所と食べる所だけ確保し、居場所がないようなこともありました。工事で外の部屋は物置状態です。

・また工事費の清算は済んでいないので、最終工事費がいくらになるかは不明です。最低+10%は見込む必要があるかと思っています。
・ともあれ、一応快適な正月を迎えられました。ただ、まだ家中荷物が混乱しております。しかし今後は、安心して(?)共助に専心できるものと信じます。

30年以内震度6弱の確率 横浜78%全国最高

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が全国でも最も高い都市は横浜の78%であることが、政府・地震調査委員会が12月19日に公表した全国地震予測地図で分かった。予測図は2025年から公表しているが、東日本大震災を教訓に今回から評価方法を改善。相模湾から房総沖へ延びる相模トラフで想定される地震の多様性や従来想定していなかった地震、最新のデータなどを加味した結果、首都圏のリスクが鮮明になった。

横浜に次いで6割以上となる確率が高かったのは千葉の73%。高知と水戸の70%。東京は46%だった。昨年までに公表された確立とは評価方法が異なるため、単純な数値の比較はできないという。

横浜の78%が出たのは中区の横浜市役所周辺で、埋め立て地のため揺れが増幅しやすい影響が強く表れた。マグニチュード(M)7級の首都直下型地震やM8.5

防災部・防災ボランティアの今後の活動予定

- スタンドパイプ消火訓練：2月12日実施
● 防災だより8号：5月15日予定
● 防災倉庫棚卸し兼備品動作テスト：3月予定
● 会計監査・来年度活動計画立案：3月予定
● 防災会議、防災ボランティア役員会議：毎月実施



9級の南海トラフ巨大地震で想定される。震源地に近いことも、揺れのリスクを高める要因となった。両地震については、調査委が震災後に将来の発生予測や起きるパターンを見直したが、ともに30年以内の発生確率は70%程度と高い。横浜は首都圏直下で震度7、南海トラフでは震度6の揺れが想定されている。
● 首都圏の足元で地震を起すエネルギーをため込んでいるフィリピン海プレート(岩盤)の位置に関する最新の研究成果も、首都圏の確率が高く見積もられる結果に繋がった。沖合から日本列島にむかって沈み込む同プレートの上面は、東京湾北部で従来の想定より10%ほど浅いことが判明。震源が地表に近くなる分、同規模の地震でも揺れが大きくなる傾向が分かった。(12月20日神奈川新聞より抜粋)